



国際生物科学連合  
International Union of Biological Sciences  
(IUBS) <http://www.iubs.org/>

概要

2021年10月  
日本学術会議IUBS分科会

# IUBSとは



UNESCO傘下で世界の生物学を総合的に方向づける学術団体

## 設立

1919 国際生物命名委員会として設立  
1955 UNESCO内に組織されたICSU  
(現ISC)傘下の分野別学術連合体  
の一つIUBSとして組織変更

## 目的

生物学の世界的代弁者として、  
地球規模の生物学的課題に関する  
国際的な研究や教育を  
総合的に方向づけ、支援、啓蒙する

## メンバー

Ordinary Members 29



Scientific Members 85

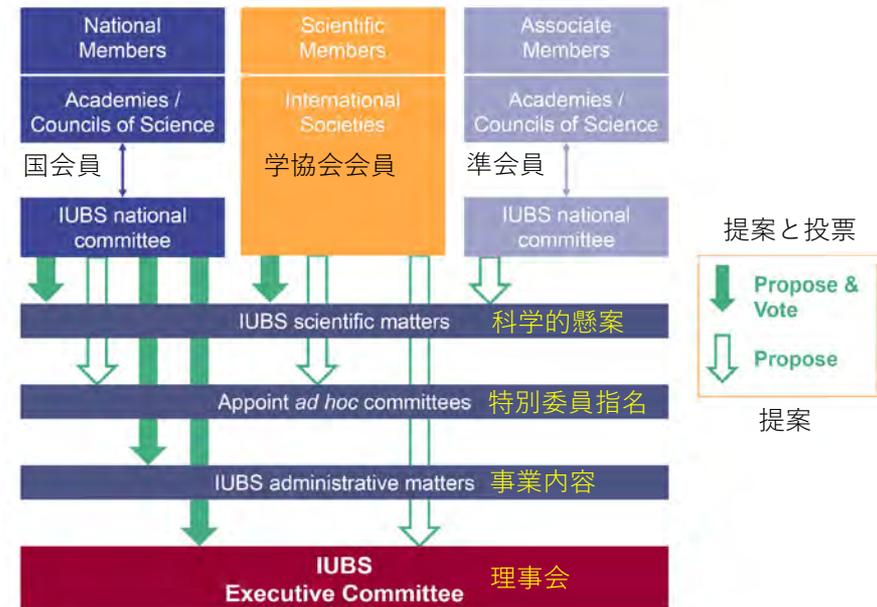
Associate Members 1

## 資金

国別分担金  
(UNESCOとISCが定める  
各国GDPを基準にした額)

## ガバナンス

IUBS General Assembly 総会 (3年ごと) で決定



# IUBSの事業と社会への貢献



## ビジョン

世界を益する生物学の推進

## ミッション

生物学を代表して意見を発出する

## 主な事業分野

### 定常的な事業

#### 生物学からの国際的 イニシアチブ発出

- ・ 多様性を見据えた生物学の融合 Unifying Biology through Diversity
- ・ 生物学教育とアウトリーチ International Education and Outreach Projects

#### 国際的な政策枠組み・政府間 ネットワークへの参画や協力

- ・ ISC (国際学術会議)
- ・ IUCN (国際自然保護連合)
- ・ CBD COP (生物多様性条約)
- ・ SCAR (南極研究科学委員会)
- ・ WHO, FAO
- ・ GBIF (世界規模生物多様性情報)

### 期間事業

#### 科学プログラム実施 及び科学集会支援

(2020-22の例)

- ・ 分類階級世界標準策定
- ・ 草原化問題 GIPP
- ・ 変化する地球と生物学
- ・ 動物由来の疾病
- ・ 23rd国際動物学会議

## 主な 貢献 例

### 国際機関設立と活動支援

- ・ ICZN等, 生物の命名規約を管理する国際団体
- ・ TROP ICSU (学際的研究による気候変動理解推進のための教育手法)

### 国際機関への参画と協力

- ・ 科学におけるジェンダー平等性 (Gender Equality in Science)
- ・ Future Earth
- ・ IYBSSD2022 (持続可能な発展のための基礎科学年) UNESCO

### 政府への科学的助言

- ・ 2013-15のDABを契機として学術会議が2016年に提言「国立自然史博物館の必要性」を発出

# 日本学術会議・日本の科学者による IUBSへの貢献



## 財政的貢献

- ・ 分担金の拠出

## 組織運営への人的貢献

- ・ 2016-19 武田洋幸会員 (東京大学教授)：会長
- ・ 2020-現在 村上哲明連携会員 (東京都立大学教授)：理事
- ・ 2019.7 西田治文連携会員 (中央大学教授，派遣国代表)：第33回総会特別委員

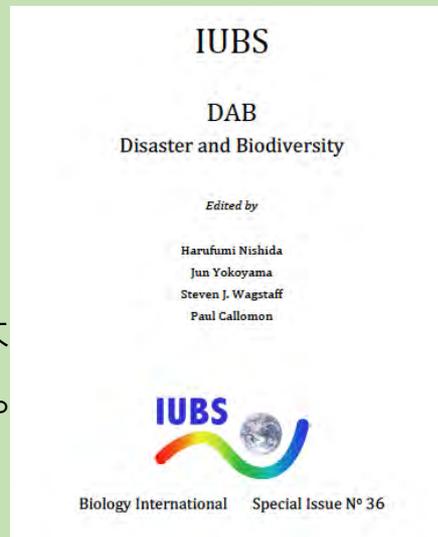
## 学術・教育的貢献

例

国際シンポジウム

「災害と生物多様性」DABの  
日本開催 2014年9月

3.11地震災害を契機に，災害が  
生物多様性及び自然系博物館/標本  
に及ぼす影響と問題点を議論した。  
成果は2017年にIUBSの特別報告と  
して出版された。



例

ICSU(現ISC)Gender Gap  
Project会議への代表派遣  
2017年11月

台湾で開催された標記会議  
に，学術会議IUBS分科会が  
推薦した大隅典子東北大教  
授をIUBSの資金援助により  
派遣した。

# 将来の展望

## 事業の実施を通じた科学調査・研究の支援等

- ◆ 定常的な事業の実施を通じた科学調査・研究の実施・支援
- ◆ 期間事業の実施を通じた地球規模課題への生物学からの対応
  - ・ 現在3カ年計画 2020-2022を実施中
  - ・ 第34回総会（2022年東京）で次期3カ年計画2023-2025採択の予定

### 生物学的優先課題

グローバルな  
持続可能性

生物多様性の  
保全と回復

感染症の  
脅威排除

生物学的社会倫理の  
構築と広報

次世代教育及び  
各種格差の解消

## 組織としての課題への取組

- ◆ 組織活動の強化：優先課題への取組
  - ・ 現在3カ年計画 2020-2022を実施中
  - ・ 第34回総会（東京）で次期3カ年計画2023-2025採択の予定
- ◆ 財政基盤の確保：資金調達方法（分担金算出方法）の見直し
  - ・ 財政基盤である国別分担金の額はUNESCOとISCの基準設定に準拠
  - ・ 特に経済先進国の加盟数増加に引き続き努力
  - ・ IUBSが支援する個々の活動において独自の資金獲得努力を求める